

スポーツには、言葉、性別、人種、障がいなどの壁はありません。

そして健康や生きがいづくり、地域や経済の活性化、国際交流などに密接に関わり、人と人、企業と企業、北海道・札幌のモノ・コトをつなぐ大切な役割を担っています。

このようなスポーツによるまちづくりについて、スノーボードアルペン日本代表のヘッドコーチ・戸崎啓貴さんにお話を伺いました。

「支えられる側」から「支える側」へ
次世代の翼と見る新しい景色

スノーボードアルペン元日本代表
公益財団法人全日本スキー連盟スノーボードアルペン種目ヘッドコーチ
戸崎 啓貴 さん

1984年生まれ、旭川市出身。13歳でスノーボードアルペンを始め、日本代表としてW杯や世界選手権に出場し、10年以上海外を転戦する。2015年にプロツアー総合優勝を飾り引退、コーチの道へと転身。

取材協力: tocchancafe (トッチャンカフェ)

世界を駆け抜けた情熱
今は未来を支える力に

10代の頃からスノーボードアルペン日本代表として、10年以上海外を転戦していました。引退後、のんびりカフェの店主もいかな、なんて考えていた矢先にお世話になった方から声がかかり、山梨県で後進の育成の手伝いをすることに。2018年からは日本代表チームのコーチとして、五輪やW杯などの国際大会に帯同しています。コーチの仕事を始めると、これが実に変で(笑)。スノーボードの技術だけではなく、マネージメントなど、選手たちが戦いやすい環境を整えるのもコーチの手腕ひとつ。改めて、現役時代のサポートの有り難さを実感しました。今は多忙ななかにも、支える楽しさや僕自身の新たな学びもあり、選手時代とはまた違った充実感があります。

スポーツの楽しさを伝える活動
新たな夢の原動力に

日本代表コーチと並行して、女子スノーボードアルペン五輪メダリストの竹内智香さんが東川町で主宰する「&tomoka」の国内コーチとしても活動しています。この面白いところは、地元の子どもたちに本物に触れられる環境を提供したいと、ジュニアのトップ選手から未経験者まで幅広く受け入れている点。何よりも、スポーツを通じて子どもたちに目標を達成する喜びや、挑戦する楽しさを学んでもらうことに重きを置いています。いつか教え子から代表選手が生まれて、代表コーチとして僕がサポートできたら……。それが今の大きな目標ですね。

いい人、いい街
#まいにち金メダル

さっぽろの魅力的なヒト・モノ・コトに
金メダルを贈り合う「まいにち金メダル」プロジェクト実施中



戸崎さんがコーチとして活動している
竹内智香さん主宰の「&tomoka」の情報は
こちらをチェック

